

報道関係者 各位

平成 24 年 1 月 13 日 日本科学未来館

企画展**世界の終わりのものがたり～もはや逃れられない 73 の問い**
平成 24 年 3 月 10 日(土)から開催

にっぽんか がくみらいかん 日本科学未来館(略称: 未来館、館長: もうりまもる 毛利衛、所在地: 東京都江東区青海)は、平成 24 年 3 月 10 日(土)から 6 月 11 日(月)まで、企画展「世界の終わりのものがたり～もはや逃れられない 73 の問い」を開催します。

すべての物事には終わりがあります。流行は廃れ、形あるものは壊れ、人には死が訪れ、文明も崩壊します。かつては永遠に存在すると考えられていた宇宙でさえも、やがて終焉を迎えます。「終わり」は世界の必然であり、すべてのものに潜んでいます。にもかかわらず、私たちは忙しい毎日の中で終わりに向き合うことなく、日々を過ごしているのではないのでしょうか。

3 月 11 日に発生した東日本大震災は、平和で穏やかな生活が一変する可能性があることを、私たちに思い知らせました。都市防災やエネルギー問題など、看過していた問題が露わになり、科学技術に支えられた私たちの生活が、こんなにも危うく、脆いものだということが突きつけました。

その事実から 1 年を経て、私たちは日常に戻りつつあります。しかし、終わりという真実を踏まえた上で、人は何を大切に生きていくべきか、また科学技術とどうつきあっていくべきかといった問題に正面から向き合い、自分なりの答えをもつべきではないかと考えます。本展は、そうした問題と一人ひとりが向き合う機会となる展覧会です。会場では、「終わり」をさまざまな観点から捉える 73 の「問い」を通して、来場者の考えを問い続けます。来場者は、他の回答や問いのヒントとなる科学トピックを見ながら、自己対話を繰り返し、自分にとって大切な価値を再発見しながら、生きる覚悟を固めていきます。

「終わり」を知ったうえで、それでも続いていく“生”への希望を見出していく。それが生きている者の使命だからこそ、私たちは遠ざけてきた問題と今こそ向き合わねばなりません。この展覧会によって、「終わり」から始まる新たな希望のものがたりが生まれることを願っています。

また、展覧会の開幕に先立って、特設ウェブサイトを開く。谷川俊太郎氏(詩人)、茂木健一郎氏(脳科学者)、乙武洋匡氏(教育者・スポーツライター)、小島慶子氏(ラジオパーソナリティー)など、各方面の第一線で活躍する著名人に聞いた「終わり」観や、「問い」への回答を、順次公開します。広く一般からも回答を集め、その多様性を共有します。

なお、本展のキービジュアルは CasaBRUTUS 等で活躍するイラストレーター・タイマタカン氏の書き下ろしです。タイマ氏の考える「世界の終わりのものがたり」を、ポップで鮮やか、かつ懐かしさも感じる独特のタッチで表現します。

■ 概要 ■

会 期 平成 24 年 3 月 10 日(土)～6 月 11 日(月)
開 催 時 間 10:00～17:00 (入館は閉館の 30 分前まで)
場 所 日本科学未来館 1 階 企画展示ゾーン a
休 館 日 毎週火曜日(ただし、3 月 20 日、27 日、4 月 3 日は開館)
入 場 料 大人 1,000 円、18 歳以下 300 円
団体(8 名以上) 大人 800 円、18 歳以下 240 円
※常設展示入場可 ※小学校未就学児は無料 ※障害者手帳保持者は本人および付き添い者 1 名まで無料

主催・企画・制作 日本科学未来館
協 力 臨海副都心まちづくり協議会、東京臨海副都心グループ
※電力事情やその他状況により、開館日や営業時間が変更になる可能性があります。
随時、未来館ホームページ(<http://www.miraikan.jst.go.jp>)にてお知らせします。

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraikan.jst.go.jp	日本科学未来館 事業推進課 プロモーション担当 (press@miraikan.jst.go.jp) 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

[展示構成]

会場内は4つのセクションに分かれています。起点となるのは今ここにいる「わたし」の存在。自分自身の終わりから自分をとりまくものの終わり、そして世界の終わりへ。会場空間を進みながら次第に視点を外部へと広げていく構成です。

■ 予期せぬ終わり

地震、台風、隕石衝突、あるいは病気や交通事故、戦争やテロ。ある日突然、降りかかるかもしれないさまざまな危機。地震予知など、危機予測研究の現状を見ながら、リスクという不確実性とどう向き合うかを考えます。

提示される問い：「あなたの人生で一番心配なことはなんですか？」

「どんな病気になるか、あらかじめわかるとしたら知りたいですか？」ほか

■ わたしの終わり

生命の仕組みが解明され、医療技術が発達するなかで、「生きている」という概念も、生と死の境界もゆらいでいます。また、老化しても若返ることのできるベニクラゲの研究や、恒星の生涯などを参照しながら、人の「終わり」について、アイデンティティのありかについて、広く、深く問いかけます。

提示される問い：「永遠の生を手にいれることができれば、ほしいですか？」

「『生きている』ってなんでしょう？」ほか

■ 文化の終わり

地球が始まって以来、人も自然もたえず変化してきました。また、技術の進歩は人の生活を大きく変えました。上空に塵をばらまき太陽光をさえぎって地球温暖化をくい止めようとする「ジオエンジニアリング」研究の例などを眺め、「持続可能」とは、何を、いつまで、誰と持続させることなのか、変化に満ちた世界で残すべきものはなにかを問い直します。

提示される問い：「50年前の生活にもどることはできますか？」

「テクノロジーの進歩によって失われたものはありますか？」ほか

■ ものがたりの終わり

「世界の終わり」とは、なにを意味するのでしょうか。宇宙が？ 地球が？ 一生が？ それとも大事な人やものごとが？ 本展は、終わりがあるとうと今この瞬間、世界もわたしも続いていることを確かめて終幕を迎えます。そして「終わりから始まるものがたり」がここにスタートします。

提示される問い：「あなたにとって世界の終わりとは、なにが終わることなのでしょうか？」

「あなたはどんな未来をつくれますか？」ほか

■ 関連企画「ラブレター」ライティングスペース(場所：1階 シンボルゾーン)

誰にでも訪れる人生の「終わり」。限りある生の時間の中で、大切な人としていたいこと、行きたい場所、どんな時間を過ごしたいかをあらためて考え、便箋に書き込むことができるスペースです。想いをのせた便箋は、いわば、人生をともに歩む大切な人への「ラブレター」。画面上で過去の来場者が書いたラブレターを見ることができます。

■ 「世界の終わりのものがたり」特設サイト

特設サイト限定コンテンツを公開。ここでしか見られない著名人の回答を掲載します。

・第一期「まずは『世界の終わり』をイメージする」(1月14日～)

各界の著名人が「世界の終わり」を想起させる本、映画、音楽などの作品を紹介し、コメントします。

回答者：谷川俊太郎氏(詩人)、内田樹氏(思想家)ほか

・第二期「ものがたりの核心にウェブから参加する」(3月上旬～)

会場で展開する「問い」に、著名人が答えます。また、Twitter、facebookを使い、一般からも回答を募集します。

回答者：茂木健一郎氏(脳科学者)、乙武洋匡氏(教育者・スポーツライター)、

小島慶子氏(ラジオパーソナリティー)ほか

[参考画像]



キービジュアル(イラスト: タイマタカシ)



会場イメージ

ACT after 3.11 at Miraikan

日本科学未来館は、科学の役割を問い直し、さまざまな分野の「知」を集め、未来のためのアクションを皆さんと一緒に考えます。

※本件に関するプレスリリース、及び画像は未来館ホームページよりダウンロードしてご利用いただけます。

URL: <http://www.miraikan.jst.go.jp/press/>